エコアクション２１

環境活動レポート

第49期

（2015年10月～2016年9月）

株式会社　カンサイ

発行日　2016年10月30日

目次

ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

1. 会社概要・沿革等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

2. 環境方針等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

3. 推進体制並びに責任と権限

（1）推進体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

（2）責任と権限・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

4. 環境負荷の実績と考察45期～49期

（1）実績・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

（2）考察・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

5. 49期の環境活動計画と中期環境目標

（1）49期の環境活動計画 ・・・・・・・・・・・・ 7

（2）中期環境目標 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

6. 各部署49期の取組みと実績・評価 ・・・・・・・・・・ 9～26

7. 50期の環境活動計画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

8. 第三者意見 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28

9. 環境関連法規・訴訟等の有無 ・・・・・・・・・・・・ 29

10. 許認可情報等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30～31

11. 代表者による全体評価と見直しの結果 ・・・ 32

12. 編集後記 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32

対象事業所	本社	広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地
	本社工場	広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地
	倉橋工場	広島県呉市倉橋町字田野尻山935番地
対象期間	2015年10月～2016年9月（第49期）	
認証番号	0004647	
認証登録日	2010年2月22日	

ご挨拶

原点

株式会社カンサイは、創業以来「人と人との調和　人と自然との調和を大切に」という考えのもと、廃棄物処理業・リサイクル業を追求してきました。
また、2013年4月、企業理念として、

全従業員の物心両面の幸せを追求するとともに、
併せて人類と自然との調和を大切にする

を制定しました。これは株式会社カンサイの企業活動の原点であり、判断や行動の拠り所になるものです。目先の利益にとらわれるのではなく、全社員が人として何が正しいのかを基準に考え行動し続けることにより、安心・安全なサービスを提供できると考えています。

創意工夫

株式会社カンサイは、「廃棄物処理」を起点に事業を拡大してきました。また自然環境の保全、資源の有効利用を推進する循環型社会基本法、個別物品に応じたリサイクル関連法が制定されました。そうした社会背景から、当社に廃棄物処理をご依頼頂くお客様のニーズも多様化しています。車両の更新、廃棄物処理施設・リサイクル施設の高度化は元より、ニーズにお応えするための技術革新、そして進化をもたらす人材育成に努め、社会からの期待に応え、さらなる成長をめざしていきます。

調和

株式会社カンサイは、「人・社会・環境」との調和を図ることで、社会から存在意義を認めて頂ける企業であり続けたいと考えています。工場見学者の受入、情報開示、地域交流や協賛を長期に渡って取り組んでまいりました。
また、社会貢献活動の一環として、平成17年に循環型農園「きなり村」を開設いたしました。食に対する関心が高まっている中、当社のリサイクル製品である肥料を使用し、化学肥料や農薬を使用しない有機農法によって作物を栽培し、都市部へ循環させるという取り組みを行っています。
これからも「人と自然との調和を大切に」し、社会との共生を図り、「環境創造総合企業」として社会の持続的発展に貢献し続けたいと考えています。

株式会社　カンサイ
代表取締役　川本義二

1. 会社概要・沿革等

会 社 概 要

会　社　名	株式会社カンサイ
所　在　地	広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地 ＴＥＬ：（082）941-1641 ＦＡＸ：（082）941-1715
代　表　者	代表取締役社長　川本　義二
環境管理責任者	代表取締役社長　川本　義二
エコアクション21推進責任者	環境事業部部長　北川　貴伸
従業員数	43名
敷地面積	13,838㎡
処　理　量	第49期　14,544ｔ
売　上　高	第49期　661百万円
Ｕ　Ｒ　Ｌ	http://ekansai.co.jp
事業内容	一般廃棄物、産業廃棄物収集運搬処理 建設土木工事 総合リサイクル業 環境衛生プラントの運転管理、メンテナンス 環境計量証明事業 肥料製造業

沿　革

1968年2月
　産業廃棄物処理を目的に関西特殊産業株式会社を設立

1972年9月
　産業廃棄物の収集運搬処理の許可を取得

1979年7月
　ロータリーキルン式焼却炉を設置

1979年10月
　汚泥肥料生産　肥料生産販売業届出

1982年4月
　環境計量室を新設

1985年12月
　倉橋工場を新設

1991年10月
　回転炉床式焼却炉を設置

1998年10月
　株式会社カンサイに社名を変更

2000年4月
　ＩＳＯ14001認証取得

2010年２月
　エコアクション21認証取得

2014年7月
　広島県特別管理廃棄物収集運搬業許可の優良認定

2015年9月
　回転炉床式焼却炉にバグフィルター設置

2. 環境方針等

〈 社　　是 〉

人と人との調和
人と自然との調和を大切に

〈 企　業　理　念 〉

全従業員の物心両面の幸せを追求するとともに
併せて人類と自然（全人類　大自然）との調和を大切にする

〈 環　境　方　針 〉

「人と自然との調和を大切に」

私たちは、人と自然との調和を大切にし、地域社会と利害関係者とのふれ合いを図り、技術と知恵と勇気を持って環境問題に積極的に取り組み、広く社会に貢献できる企業を目指します。

〈 行　動　指　針 〉

私たちは省エネ・省資源をはじめ、地球環境の保全と、資源の有効利用に弛まない努力と創意工夫を行い地域社会の一員として健全なる社会の発展に貢献いたします。

〈 基　本　方　針 〉

1．資源の節約と再利用を促進し、環境と資源の保全に努めます。
- CO_2排出量の低減や森林資源の保護、バイオマス利活用によるCO_2吸収、エネルギーの有効活用等に寄与します。
- 廃棄物の削減、資源化率の向上を推進いたします。
- 資源循環の技術開発を積極的に推進いたします。

2．事業に関連する全ての法律を遵守します。

3．環境マネジメントシステムの効率的な運用を行い、環境負荷の低減に努めます。

4．情報はホームページ、電子掲示板、ポスター等により、全ての関係者に広く公開いたします。

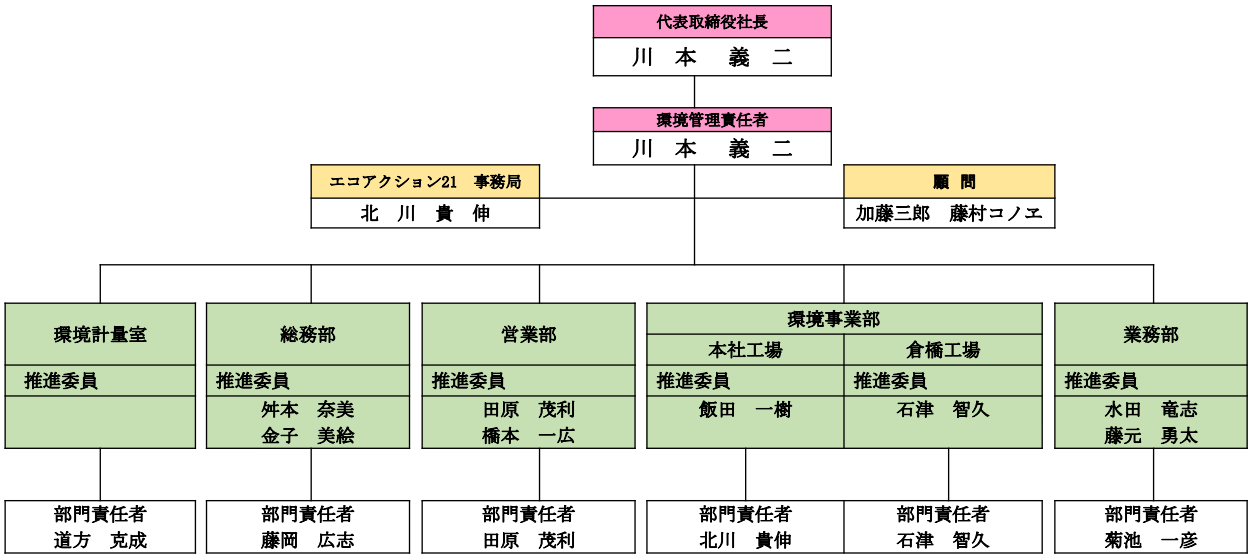
制定　２００９年１０月１日
改訂　２０１４年　３月１日

株式会社　カンサイ
代表取締役　川本義二

3. 推進体制並びに責任と権限

（1）推進体制

当社はエコアクション21（EA21）推進委員を中心とした体制で、
環境対応に取組んでいます。



（2）責任と権限

責任及び権限	
統括 （代表取締役社長）	① 環境方針の策定と全従業員への周知 ② 環境管理責任者の任命 ③ 運用に必要な人材、設備、費用、時間の準備 ④ 全体の取組み状況の評価、見直し
環境管理責任者	① 環境活動の取組み結果を代表者へ報告 ② 環境力道場の開催
エコアクション21 推進責任者	① エコアクション21事務局の総括 ② 一般教育の計画、実施 ③ 環境力道場の運営
エコアクション21 事務局	① 環境データの集計、取りまとめ ② 環境関連文書及び記録の管理 ③ 外部からの環境に関する苦情、要望の受付及び対応
推進委員	① 各部門における環境活動の管理 ② 環境活動実績の把握と事務局への報告
部門責任者	① 自部門の環境活動の責任者 ② 実務教育・訓練（専門教育）の計画、実施
全従業員	① 環境方針の理解と環境への取組みの重要性を自覚 ② 決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

4. 環境負荷の実績と考察 45期～49期（2011年～2016年）

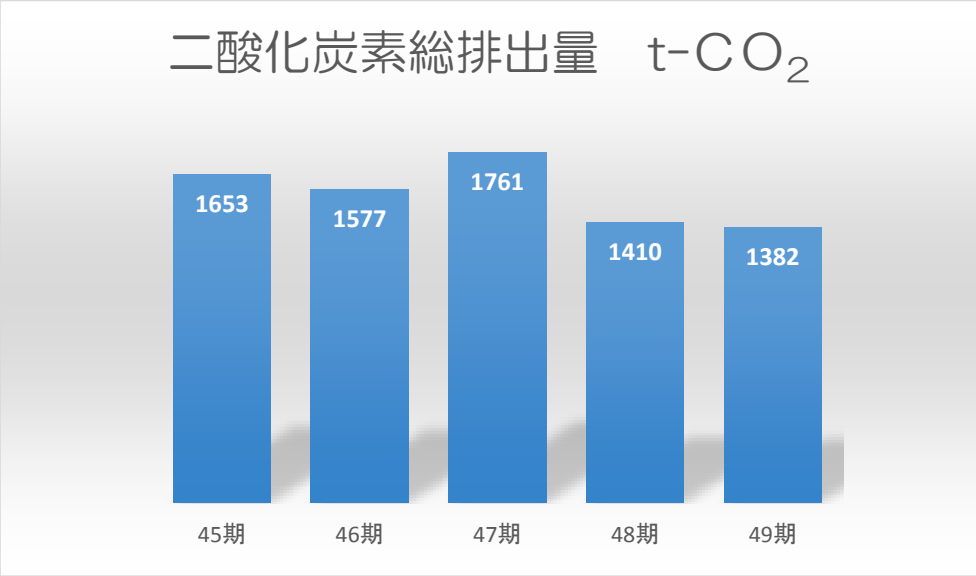
（1）実績

		単位	45期	46期	47期	48期	49期	排出係数	49期 CO_2排出量
二酸化炭素等総排出量	電力（本社工場･倉橋工場）	kwh	889,599	726,212	798,651	664,915	727,601	＊0.738	537
		前年対比%	46%↑	53%↑	10%↑	17%↓	9%↑		9%↑
	電力（事務所･休憩所･きなり村）	kwh	166,072	207,710	223,976	232,210	84,631	＊0.738	62
		前年対比%	15%↑	25%↑	8%↑	4%↑	64%↓		64%↓
	灯油	ℓ	622	2,863	745	745	-	0.0679	-
		前年対比%	1537%↑	360%↑	74%↓	39%↓	-		-
	A重油	ℓ	348,000	288,000	221,066	116,088	137,450	0.0693	372
		前年対比%	14%↓	17%↓	23%↓	47%↓	18%↑		18%↑
	低硫黄重油	ℓ	9,706	10,230	1,375	-	-	0.0513	-
		前年対比%		5%↑	87%↓	-	-		-
	LPG	kg	368	477	529	492	699	0.0598	2
		前年対比%	21%↑	30%↑	11%↑	7%↓	42%↑		42%↑
	ガソリン	ℓ	17,148	16,660	17,069	16,495	11,967	0.0671	28
		前年対比%	11%↓	3%↓	2%↑	3%↓	28%↓		28%↓
	軽油	ℓ	117,026	142,629	137,595	133,797	145,220	0.0687	381
		前年対比%	2%↓	22%↑	4%↓	3%↓	9%↑		9%↑
合計		$t\text{-}CO_2$	1,653	1,577	1,761	1,410	1,382		1,382
		前年対比%	2%↓	4.6%↓	12%↑	20%↓	2%↓		2%↓
	総排水量（事務所･倉橋工場）	m^3	651	600	1,381	1,419	1,533		
		前年対比%	6%↑	7.8%↓	130%↑	2%↑	8%↑		
	廃棄物排出量	t	4,797	4,636	4,323	4,785	4,687		
		前年対比%	32%↑	4%↓	7%↓	11%↑	2%↓		

※二酸化炭素排出量は、エネルギー種類ごとに消費量×二酸化炭素排出係数×単位発熱量を掛け合わせた数字です。この表では消費量と49期二酸化炭素排出量を掲載しています。

※47期に電力の排出係数見直しを行いました。（46期までは0.3780kg-CO_2/kWh）

※環境省2014年公表電力事業社別CO_2排出係数は、中国電力0.719kg-CO_2/kWhですが、前年との比較と経過観察のため、47期～52期まで環境省2013年公表電気事業者別CO_2排出係数（中国電力0.738kg-CO_2/kWh）を使用しています。



（2）考察

CO_2総排出量は、48期と比較すると2%の削減となっておりますが、各部署の取組み内容を見ますと軒並み増加しております。それでもCO_2総排出量が減少したのは、きなり村の運営を根本的に見直すために49期から対象外としたためです。

本社事務所をワンフロアにした結果、エアコン使用電力が29.5%も抑えられ一定の成果がありました。

本社工場は、周辺環境への配慮のため、臭気対策等による設備の増強により使用電力が増しました。これを補うためには、こまめな節電や設備更新時に省エネ設備を選択するなどの配慮が必要と考えられます。

業務部は、仕事の内容により燃料使用量が左右されますが、車両更新時に燃費性能の良い車両への更新が望まれます。

倉橋工場は、50期に重機の入れ替え予定があり、燃料使用量が抑えられるものと考えられます。

5. 49期の環境活動計画と中期環境目標

（1）49期の環境活動計画

	目標	活動内容	実施時期	該当部門
1. 環境	（1）回転炉床・ロータリーキルンの重油使用量の削減	管理体制の強化、随時改善する プラント運転管理者の技術の向上	通年	本社工場
	（2）業務車両のガソリン・軽油使用量の削減	ドライブレコーダーの運用 および管理体制の強化	通年	業務部
	（3）営業車両のガソリン使用量の削減	エコ運転の教育・徹底	通年	営業部
	（4）重機の軽油使用量の削減	点検マニュアルの改善 および管理体制の強化	通年	倉橋工場
	（5）事務所電力使用量の削減	フロアの統合と、こまめな節電	通年	環境計量室
	（6）グリーン調達の推進	グリーン商品購入の周知徹底と集計を行う	通年	総務部
	（7）場内全域の臭気対策	有機汚泥の受入れ設備の改良	通年	本社工場
	（8）施設の改善	保管場所の整備・搬入ルートの改善	通年	本社工場 倉橋工場
	（9）在庫管理の強化	処理スケジュール作成による管理と実施	通年	本社工場 倉橋工場
	（10）緊急事態（自然災害）への対応	自然災害へのリスク調査（中期計画）	通年	本社工場 倉橋工場
	（11）各環境測定の実施	ダイオキシン測定ほか	通年	本社工場
	（12）燃え殻・汚泥・肥料・排水維持管理	毎月サンプリング・分析 および関係部署への伝達	通年	環境計量室
	（13）環境活動レポートの作成	１１月初旬に49期版を発行	10～11月	EA21事務局
2. コミュニケーション	（1）ステークホルダーからのご要望への対応	お客様からの要望・意見・提案を回覧する	通年	全部署
	（2）情報の共有化	新システム導入によるスケジュール管理	通年	営業部
	（3）社員とのつながり	誕生月の社員をお祝・永年勤続者の表彰	通年	総務部
	（4）家族とのつながり	社内報の内容を充実させる	年2回	営業部
		家族見学会の企画・実施	年1回	総務部
	（5）ステークホルダーとのつながりの拡充	地域清掃活動への参加	通年	営業部
	（6）自社活動の広報	イベントの企画		営業部
	（7）見学者の受け入れ拡充	部署間での事前協議	通年	営業部
	（8）積極的な情報公開	ホームページの充実	通年	総務部
3. 教育	（1）自社活動内容の理解度向上	年1回全体教育の実施	5月	EA21事務局
	（2）資格取得へのチャレンジ	リストアップと計画取得	通年	全部署
	（3）知識の向上	随時各講習会、講義の参加	通年	全部署
4. 安全衛生	（1）1年間無事故無災害	指差し確認の徹底と啓発	通年	本社工場 倉橋工場 業務部
	（2）交通事故の防止	事故事例の再検証	通年	業務部
	（3）飲酒運転禁止	アルコールチェッカーの運用 （基準値0mg）	通年	業務部
	（4）5S活動の推進 （整理・整頓・清掃・清潔・躾）	毎週金曜日の清掃活動	通年	全部署
	（5）安全衛生協議会の設置	月次報告会内にて設置	通年	EA21事務局

5. 49期の環境活動計画と中期環境目標

（2）中期環境目標

	取組み事項	50期（2016年10月～2017年9月）	51期（2017年10月～2018年9月）	52期（2018年10月～2019年9月）
全体	CO_2総排出量の削減（47期2013年10月～2014年9月）	21%削減	22%削減	23%削減
	CO_2総排出量（基準年 1,761t-CO_2）	1,391	1,374	1,356
本社工場	回転炉床焼却炉A重油使用CO_2の削減（t-CO_2）	176.7	174.9	173.2
	回転炉床焼却炉A重油使用量の削減（ℓ）	65,212	64,548	63,920
	ロータリーキルン炉A重油使用CO_2の削減（t-CO_2）	118.8	117.6	116.4
	ロータリーキルン炉A重油使用量削減（ℓ）	43,844	43,401	42,958
	回転炉床焼却炉電力使用CO_2の削減（t-CO_2）	231.5	229.2	226.9
	回転炉床焼却炉電力使用量削減（kwh）	313,686	310,569	307,453
業務	業務車両CO_2総排出量の削減（t-CO_2）	189.1	187.2	185.3
営業	営業車両CO_2総排出量の削減（t-CO_2）	22	21	20
事務所	電力使用CO_2排出量の削減（t-CO_2）	42.9	42.5	42.1
	電力使用量の削減（kwh）	58,130	57,588	57,046
倉橋工場	軽油使用CO_2総排出量の削減（t-CO_2）	72.6	71.1	70.4
	軽油使用量の削減（ℓ）	27,662	27,108	26,837
	電力使用CO_2排出量の削減（t-CO_2）	180.8	179.0	177.2
	電力使用量の削減（kwh）	244,989	242,539	240,114

※基準年を43期から47期に変更して、より実働にあった目標設定にしました。

※事務所電力使用量の目標については、48期より過去5年の平均を基に設定しています。

※48期以降の電力CO_2削減量目標値は、排出係数0.738kg-co_2を使用しています。

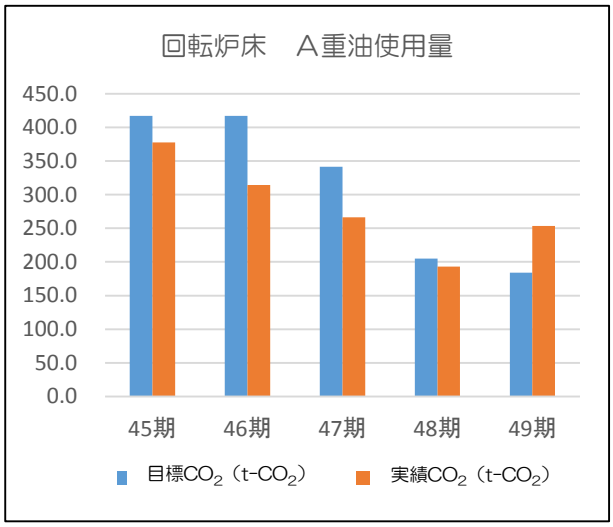
※目標に対する実績が未達成の場合、その実績値を元に見直しを検討します。

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

5（1）の計画（P.7）に沿って取組みと実績を報告します。

（1）本社工場の取組み

1）CO_2の削減など

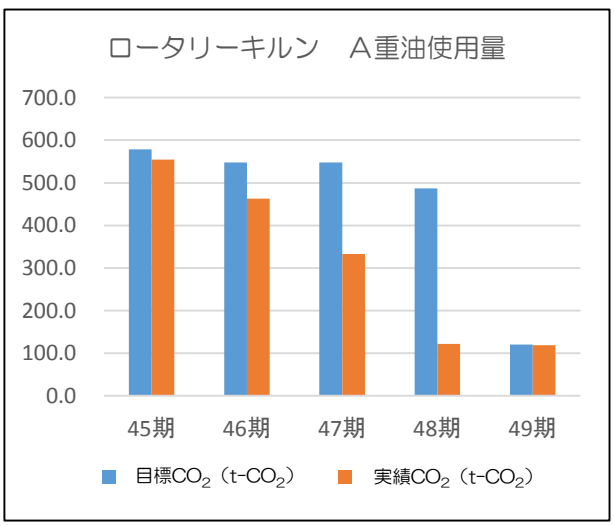


【取組み】
・毎日の使用量を記録して、月の終わりに進捗状況の見直しを行いました。
・昨年に引き続き、毎月の個人別目標達成表を掲示して、焼却炉運転管理者の意識向上に努めました。
・炉内温度の急激な昇温によるエネルギーのロスを削減するよう、温度管理の徹底に努めました。

【実績・評価】
・目標180.3t-co_2に対して実績253.7t-co_2と目標達成に至りませんでした。
・ここ数年、毎年目標を達成していた結果を受け、目標に対する意識が下がり、未達となりました。

【今後】
・今一度、削減に対する意識付けと検証を実施し、５０期の目標値176.7t-co_2達成にチャレンジします。

CO_2排出量 回転炉床式焼却炉 A重油	単位	目標	実績	CO_2削減率	評価
	t-CO_2	180.3	253.7	41%増加	×
	ℓ	66,540	93,622		



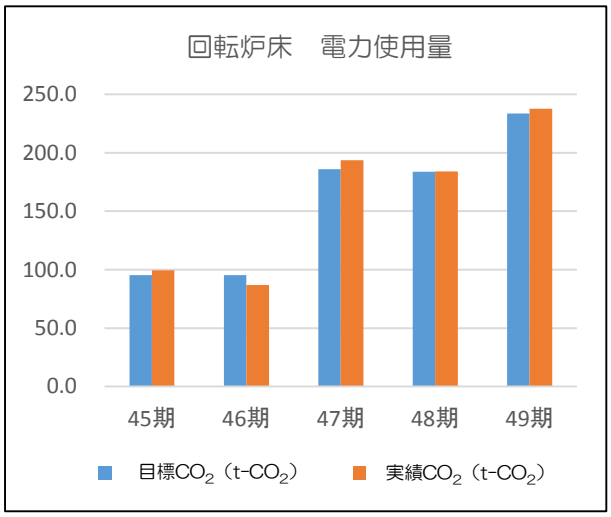
【取組み】
・毎回の使用量を記録して、月の終わりに進捗状況の見直しを行いました。
・運転頻度の見直しを行い、より効率的な設備の稼動に努めました。

【実績・評価】
・目標120.0 t-co_2に対して、実績118.8 t-co_2と目標を達成する事が出来ました。
・運転頻度を見直した結果、CO_2排出量が減少し、また処理量を増加させる事も出来、目標を達成する事が出来ました。

【今後】
・来期も、中期目標に掲げている118.8 t-co_2を達成出来る様、引き続き処理量の追求にチャレンジします。

CO_2排出量 ロータリーキルン炉 A重油	単位	目標	実績	CO_2削減率	評価
	t-CO_2	120.0	118.8	1%減少	○
	ℓ	44,286	43,828		

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

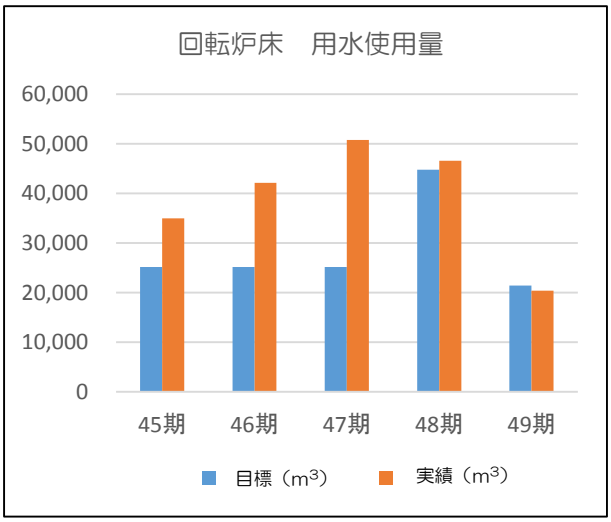


【取組み】
・毎日の使用量を記録して、月の終わりに進捗状況の見直しを行いました。
・不要な電力の消費を避ける為、不必要な設備の停止や各所のこまめな消灯を実施しました。

【実績・評価】
・目標233.8t-co_2に対して実績237.9t-co_2と目標達成には至りませんでした。
・前期に新たに導入した集塵機により、電力消費量は増加する事が見込まれる為、他の設備の見直しなどを図りましたが、目標は未達となってしまいました。

【今後】
・中期目標に掲げてある231.5t-co_2を来期は達成出来る様、増加した電力消費量を他の設備で削減出来るか再検討していきます。

	単位	目標	実績	CO_2削減率	評価
CO_2排出量 回転炉床 電力	t-CO_2	233.8	237.9	1.8%増加	×
	k wh	316,802	322,294.		



【取組み】
・毎日の使用量を記録して、月の終わりに進捗状況の見直しを行いました。

【実績・評価】
・目標21,４３８㎥に対して20,438㎥と目標を達成する事が出来ました。
・前期９月に新たに導入した集塵機の効果により、想定通り、前年より大幅に削減することが出来て、目標を達成する事が出来ました。

【今後】
・排水処理設備の更新なども検討し、更なる用水使用量の削減にチャレンジします。

	単位	目標	実績	削減率	評価
回転炉床 用水	㎥	21,438	20,438	4.7%削減	○

メッセージ

49期は、数年間毎年のように達成出来ていた回転炉床のＡ重油使用量の目標を達成する事が出来ませんでした。また、新たな集塵機の導入により増加が予想されていた回転炉床の電力消費量の目標も対策が不十分で、達成する事ができませんでした。

原因として、毎年少しずつ削減する事が出来ていた項目が、手段や取組みのマンネリ化から増加したのが原因ではないかと考えています。

環境事業部としてCO_2排出量の削減は、重要な取組みであることを部署内で再共有し、来期こそは、部員全員で目標達成にチャレンジしていきたいと考えています。

本社工場　飯田課長

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（1）本社工場の取組み
2）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・施設の改善では、臭気対策の点から、有機汚泥保管設備の更新を実行しました。
・在庫管理の強化では、スケジュールを立てて、着実に実行しました。
・各環境測定の実施では、４９期もダイオキシン測定など各環境測定をスケジュール通り、実施しました。
・１年間無事故無災害では、指差し確認の徹底と啓発を継続的に実行しました。

【実績と評価】
・有用微生物を用いた臭気対策では、該当施設の更新を優先的に実行した為、実施に至りませんでした。
・施設の改善では、有機汚泥受入施設を更新し、汚泥からの臭気及び飛散が改善しました。また、場内の土間の一部を改修し、漏洩による土壌汚染のリスクを改善しました。
・在庫管理の強化では、スケジュール通りに実行する事で、適正な在庫管理ができました。
・１年間無事故無災害では、作業中の足場踏外し事故の発生により、連続無災害１１５８日でストップし、未達となりました。
・熱中症対策としまして、通年同じ作業服を使用していましたが、49期に夏用作業服を導入して、リスクの軽減に努めました。

【今後】
・施設の改善や在庫管理は、年々、順調に改善出来ていますので、今後も継続して改善に取り組んでいきます。
・５０期は、未達となった無事故無災害を達成出来る様、しっかりと注意啓蒙していきたいと思います。また、他の廃棄物の飛散防止にも取組み、更なる周辺環境への配慮に努めます。

有機汚泥受入設備

土間修繕工事の様子

火災訓練の様子

メッセージ

49期は、有機汚泥受入設備の改良を実施して、ある一定の効果がありました。しかしながら、破砕処理後の廃プラスチック等の飛散が見受けられますので、飛散防止対策を検討し実行していきたいと考えています。

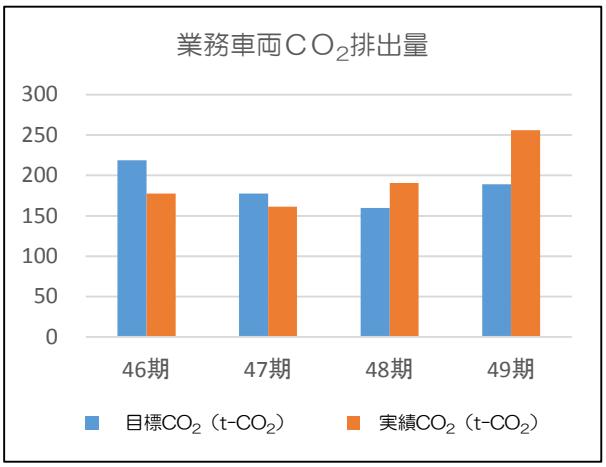
労災事故のリスク軽減のため、施設の改善と不安全行動の防止に努めてまいります。

また、梅雨時の集中豪雨により工場法面の一部が崩落したことで、法面への雨水浸入防止と植生マットによる法面保護を行いました。自然災害への対策を中期的に検討し実施したいと思います。

本社工場　北川部長

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（2）業務部の取組み
1）CO_2の削減など



【取組み】
・新たに、４ｔ車1台、２ｔ車1台導入しました。
・毎月の軽油、ガソリンの使用量を集計し、使用量を把握しました。
・毎月の走行距離、特殊車両はアワメーターを集計し使用時間を把握しました。
・各車両の走行距離を把握し、適正期間にオイル交換を実施しました。

【実績と評価】
・目標191ｔ-co_2に対して、256ｔ-co_2と大幅に増加し目標達成出来ませんでした。
・49期は、昨年より特殊車両での収集、作業が増加し、走行距離、使用時間が増えた為、軽油の使用量が増加したのが大きな要因です。また、昨年同様、夏季の熱中症対策として、故障していたエアコンを修理して使用を推進した為、使用量も増加して燃費も伸びませんでした。

【今後】
・48期同様に、定期的なエンジンオイル交換を実施して燃費の向上に努めます。また、特殊車両においては、アワメーターで使用時間を管理しておりますので、適正な時間でのグリスアップ等のメンテナンスを充実させていきたいと思います。

		単位	目標	実績	削減率	評価
CO_2排出量 業務車両燃費	年間総排出量	t-CO_2	191	256	34%増加	×
	10ｔ車両	km/ℓ	3.0	2.9	3.3%増加	×
	４ｔ車両	km/ℓ	5.9	5.6	5.1%増加	×
	２ｔ車両	km/ℓ	6.9	6.4	7.2%増加	×
	ガソリン車両	km/ℓ	17.6	15.8	10.2%増加	×

メッセージ

49期は、車両異常の早期発見、修繕期間の短縮、修繕費用の削減に重点をおいて、取り組んでまいりました。そのため、CO_2排出量削減の意識の向上はあまり図れませんでしたが、車両を大事にする愛車精神は高くなってきました。

50期は、その愛車精神をCO_2排出量削減にも反映させていき、燃費向上への意識を向上させていきます。

業務部　水田係長

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（2）業務部の取組み
2）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・一年間無事故・無災害では、毎日朝礼にて本日の危険予知活動の確認しました。
・事故が起きた場合に、再発防止として、業務部全員で事故現場検証を行いました。
・飲酒運転禁止では、引き続きアルコールチェックを欠かさず行いました。

保護ゴーグル装着状況

【実績・評価】
・保護具の着用が徹底されていなかった為、飛散した汚泥が目に入るという労災事故が発生してしまいました。
　事故発生後、全員ヘルメットに保護ゴーグルを常備し、常に着用して作業できるようにしました。
・乗車時の、周囲の指差し確認不足による軽微な物損事故が9件起きました。
・毎日のアルコールチェックでは49期も検出者0人で安全運転の心がけは習慣化されています。

【今後】
・軽微な物損事故が無くならない為、引き続き朝礼での危険予知活動内容を充実させていきます。
・車両のメンテナンスに関しては、業務部全員への修理箇所の周知を徹底し、車両の知識に対する関心を高めていきます。
・技術不足解消の為、新人にカンサイの業務に必要な資格の取得を行います。
・夏季の気温上昇により、熱中症のリスクが非常に高くなっていますので、作業環境を見直し改善していきます。

新2ｔダンプ車

メッセージ

　車両のメンテナンスに関する知識不足は解消されておらず、まだまだ改善が必要です。業務部員全員で関心を高め、一人一人が積極的に行動できるような環境づくりに努めていきます。
　カンサイの節目となる50期では、改めて車両物損事故、労災事故を起こさないよう、危険予知活動を改善していきたいと思います。

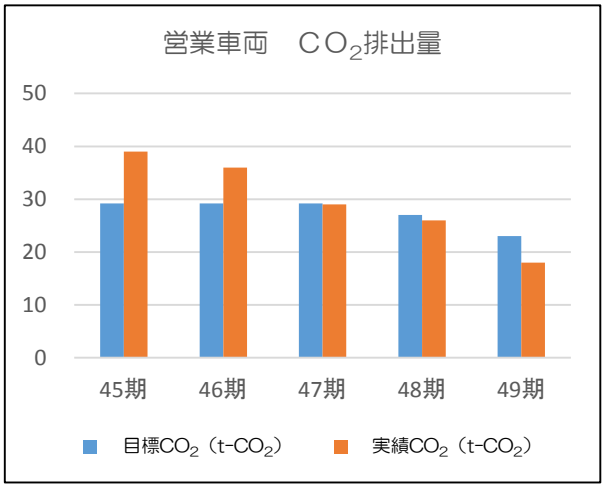
業務部　藤元主任

49期　建設工事件数等

活動規模	単位	49期
工事の件数	件	9
売上高	千万	46,663

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（3）営業部の取組み
1）CO_2の削減など



【取組み】
・エコドライブ10によるエコ運転の教育と徹底。

【実績・評価】
・48期よりCO_2排出量を22%削減、車両燃費については12%向上致しました。
・49期は、製品配送を行う軽油使用量の多い車両1台を営業車から廃止し、10月から新エコカー2台を導入致しました。その為、大幅なCO_2排出量の削減と燃費の向上に繋がりました。

【今後】
・エコドライブ10の浸透を行い、環境に携わる企業としてエコ運転を意識します。それに伴うさらなる燃費の向上と、CO_2排出量の削減を意識します。

		単位	目標	実績	削減率	評価
CO_2排出量 営業車両燃費	CO_2排出量	t －CO_2	23	18	22%削減	○
	車両燃費	km/ℓ	16.5	18.5	12%向上	○

導入したエコカー

メッセージ

エコドライブ10の取り組みを挙げていましたが、意識が弱く、部全体として取組みが薄かったと思います。他にも業務の都合上、営業車兼産業廃棄物収集運搬車両として、重量物を運んだりと車両に負荷のかかる要因はありますが、それを補うだけの人と車にやさしいエコドライブ10の取組みを浸透させていきたいと思います。

営業部　福原係長

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（3）営業部の取組み
2）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・新システムによる配車指示等を実施しました。
・社内報を年4回発行から年２回発行とし、内容の充実を図りました。
・月1回の地域清掃活動を実施しました。
・施設見学受入時、情報入手登録処理表の事前回覧により情報の共有を図りました。

【実績・評価】
・配車指示等の一元管理により、配車予約や業務内容伝達の効率が向上しました。
・社内の行事、家族会の様子など社員のご家族に向けたメッセージを配信しました。
・月1回の清掃活動は丸3年となり地域の方々の認識も得られてきていると思います。
・49期は53組の見学者を受入れ、貴重なご意見をいただきました。

【今後】
・新システムを部門間で連携し運用します。
・関係者の方々にも楽しんで頂けるような社内報を目指し、一層の充実を図ります。
・月1回の清掃活動は継続し地域の方々とのコミュニケーションをとっていきます。
・見学後の感想要望を共有し、改善に活かします。

社内報「春夏秋冬」

清掃活動の様子

清掃活動の様子

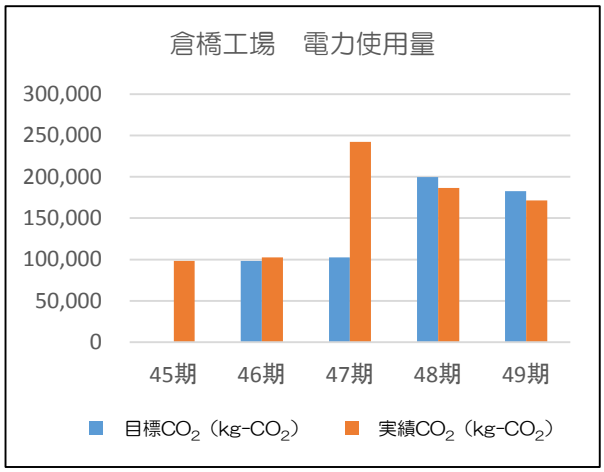
メッセージ

新システムはある程度定着し、活用できる体制が整ってきました。50期は、部門間の連携したシステム運用を追及し、効率的な業務の遂行を目指します。
また、各取組みを創意工夫し、ステークホルダーとのコミュニケーション充実を図ります。

営業部　橋本次長

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（4）倉橋工場の取組み
1）CO_2の削減など

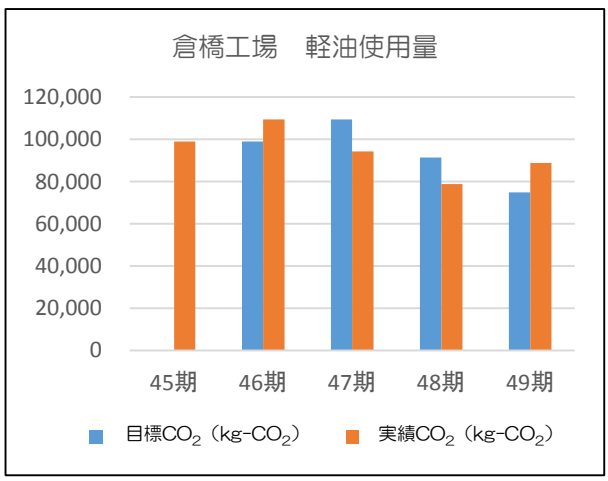


【取組み】
・最大需要電力の抑制を意識した機器の運転管理に努めました。

【実績・評価】
・182,600kg-CO_2に対して、171,573kg-CO_2と目標を達成できました。
・最大需要電力を抑制できたことで、CO_2削減率を大幅に上回る電気代の節約につながりました。

【今後】
・適切な処理、生産をするためには、削減の余地が少なくなりつつありますが、各機器の電気使用量を実際に測定し、より的確なデマンドコントロールに努めます。

	単位	目標	実績	CO_2削減率	評価
CO_2排出量 電力	kg-CO_2	182,600	171,573	6%削減	○
	kwh	247,464	232,484		



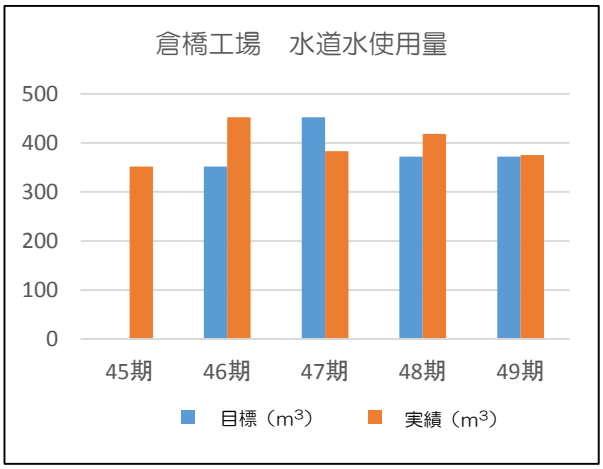
【取組み】
・作業内容に応じた重機の選択や作業工程の組立てを工夫しました。
・製品製造の目標を立て、過剰な在庫を発生させる無駄な作業は見直しました。

【実績・評価】
・74,838kg-CO_2に対して、88,879kg-CO_2と増加しました。
・冬場の発酵処理がうまくいかず、その影響が長引いたため、無駄な作業工程が発生し、結果的に大幅な増加になりました。
・49期から肥料の配達業務を倉橋工場が担当する事となり、車両の走行距離が増えて軽油使用量が1,000ℓ増加しました。

【今後】
・過去の作業工程にとらわれず、他社の好事例を積極的に取り入れ、自社の条件に合わせて応用し、ムリ・ムダ・ムラの削減に努めます。

	単位	目標	実績	CO_2削減率	評価
CO_2排出量 軽油	kg-CO_2	74,838	88,879	19%増加	×
	ℓ	28,517	33,867		

6. 各部署49期の取組みと実績・評価



【取組み】
・工場敷地内の井戸水活用の可能性を調査・検討しました。
・車両・重機の適切な管理体制を維持しつつ、洗車時の節水に取組みました。

【実績・評価】
・目標372㎥に対して、375㎥と増加しました。
・有機汚泥を扱う倉橋工場において、重機の洗車は腐食を早めることから、49期3月より拭き掃除に切替えました。
・拭き掃除にしたことで、48期実績より43㎥の削減することができましたが、わずかながら49期目標達成には至りませんでした。
・場内の井戸水の分析を実施しましたが、酸性が強く洗車には適さない水質であったため、活用は見送りました。

【今後】
・引き続き拭き掃除を主体とすることで節水に努め、定期的な洗車により車両、重機の美化、維持管理に取組んでいきます。

	単位	目標	実績	削減率	評価
水道水	㎥	372	375	1%増加	×

肥料ラインナップ

メッセージ

今期は、他社の好事例を参考にして発酵処理の作業工程を大幅に見直し、これまでのところまずまずの結果が得られつつあります。
また、年間の肥料製造目標を明確にしたことで、今までの無駄な作業、経費を削減することができました。とはいえ、まだまだ道半ばであり、課題の一部が改善できたに過ぎません。今後もPDCAサイクルに則った軌道修正を地道に続けていきたいと思います。

倉橋工場　石津工場長

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（4）倉橋工場の取組み
2）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・施設の改善では、三次発酵槽の雨除けの設置や場内の路面の補修、倉庫内の荷台の設置などを行いました。
・在庫管理の強化では、製品製造量の目標を立て、過剰な在庫を抱えないようにしました。
・緊急事態（自然災害）への対応では、裏山と施設の間に堆積した土に、簡易的な排水溝を設置しました。
・資格取得へのチャレンジでは、2名が新たな資格を取得しました。
・1年間無事故無災害では、毎日の危険予知活動を強化するとともに、ヒヤリハットを施設の改善につなげるように取組みました。

【実績・評価】
・雨除けを設置したことで、三次発酵槽への雨の降り込みが減り、肥料を製品化する効率が上がりました。
・倉庫内に荷台を設置したことで、限られたスペースを有効に活用し、製品や資材を整理整頓することができました。
・製品製造目標を立てたことで、無駄な作業、経費を削減することができました。
・排水溝を設置したことで、大雨のたびに場内に土砂が流出していた状況が改善されました。
・新たな資格を取得したことで、少しずつではありますが、当人に任せられる仕事が増え、モチベーションの向上にもつながっていると思います。
・毎日の危険予知活動を当番制にしたことで、以前より一人一人が各自の作業の危険性を意識するようになったと思います。

【今後】
・在庫管理の強化および作業工程の見直しによって無駄な電気・軽油使用による経費を削減するとともに、作業の効率化と安全性向上のために施設の改善を進めます。
・温暖化により真夏の熱中症のリスクが年々増しているように感じるので、これまで実施してきた予防策だけでなく、可能な限り季節に応じた作業計画を立てるようにしていきます。

荷台を二段から三段へ

雨の降り込み防止のため波板を設置

雨水および湧き水の排水溝を設置

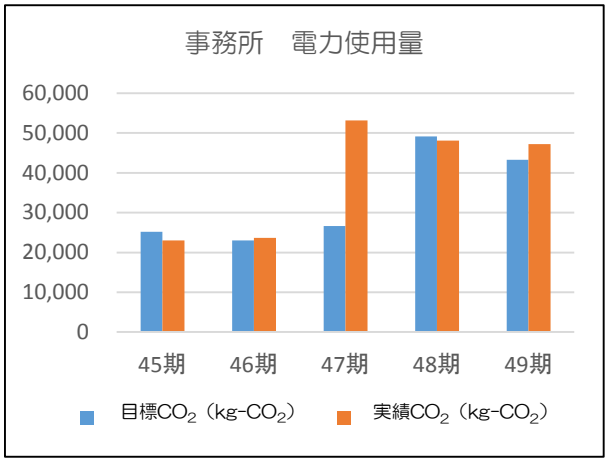
メッセージ

48期までのような大掛かりな改修工事はありませんでしたが、今まで先送りしてきた細かい部分の改善をいくつか実施することができました。全体的に改善が進んでくると、今まで目立ってなかった小さな課題が見えてくるものです。
まだまだ大規模な改修が必要なところもありますが、小さな改善も地道に積み重ねていきたいと思います。

倉橋工場　石津工場長

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（5）事務所の取組み
1）CO_2の削減など



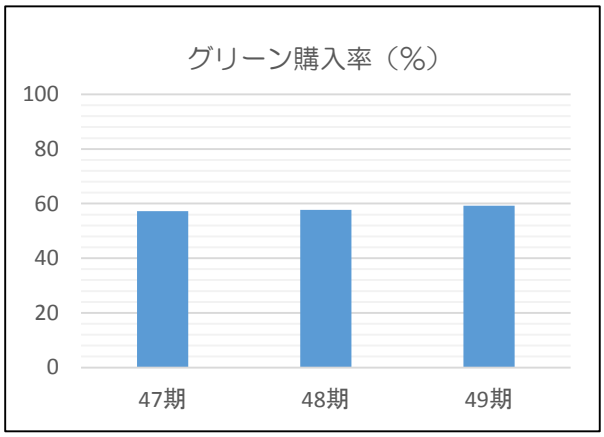
【取組み】
・49期から、事務所をワンフロアにしました。

【実績・評価】
・目標43,307kg-co_2に対して、 47,192kg-co_2と達成出来ませんでした。
・エアコン使用量は48期は17,591kWhに対して、49期は12,398kWhとワンフロアになったことにより、削減出来ました。
　しかし、電灯使用量が48期は47,610kWhに対して、49期は51,548kWhと増加しました。その原因は、ワンフロアになり電灯をつける数が増加したこと、49期は夏場に仕事量が増加し、休日出勤が増えたこと、猛暑により扇風機の台数を増加した結果などにより、増加しました。

【今後】
・LEDの導入の検討や、新たに設けた編集室のエアコンが古く、使用量に大きな影響が出ている為、省エネタイプのエアコンの買い替えを検討します。

	単位	目標	実績	CO_2削減率	評価
CO_2排出量 事務所電力	kg-CO_2	43,307	47,192	9%増加	×
	kwh	58,672	63,946		

2）グリーン購入



【取組み】
・エコマーク商品の購入推進について、掲示板の掲示と、消耗品購入カタログへの添付など、社員への周知徹底を行いました。

【実績・評価】
・グリーン購入率は48期は57.68%に対して、 49期は59.17%と増加しました。

【今後】
・さらなる積極的なグリーン商品の検索・購入を行い、購入率向上を目指します。

メッセージ

　49期から事務所をワンフロア化したにもかかわらず、電力使用量が増加していますので、50期では、 LED導入の検討や、古いエアコンの買い替え、使用していない電気はこまめに消すなど、ワンフロア化の効果が得られるよう、力を入れて削減に努めます。

総務部　舛本

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（5）事務所の取組み
3）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・社員のつながりでは、48期に引き続き朝礼で誕生月にあたる社員のお祝いをし、誕生日には一斉メール配信を行いました。
49期から新たに『永年勤続者の表彰』を開始しました。
・家族とのつながりでは、49期も社員の家族を招いて『家族会』を企画、実施を継続して行いました。
・情報の共有化では、朝礼・掲示の他に、随時社内事項をメールにて配信しました。
・積極的な情報公開では、ホームページ内の社員ブログを充実させ、イベント等も掲載しました。
・接遇の向上では、社員のレベルアップを目指して接遇研修に全員で参加しました。

家族会の様子
49期はボーリング大会でした

【実績・評価】
・第２回目となる『家族会』は好評で、「会社では見られない社員の違う姿が見れて楽しかった」「来年も参加したい」など多くの意見を頂き、満足いただけるものになりました。
・接遇研修は、49期で3回目となり、毎回内容を工夫して実施し、他部署の社員にも多く参加してもらいました。継続することで、社内でもレベルアップへの意識が高まっていると感じます。
・全体教育の場で『永年勤続表彰』を行い、社員全員で5名の該当者のお祝いをしました。社員の働く意欲・やりがいにつながる取組みができました。

接遇研修の様子
研修後講師の先生と一緒に！

【今後】
・『家族会』『誕生日のお祝い』『永年勤続者の表彰』は50期も継続して行い、社員・家族とのつながりを大切にできる、明るい職場づくりを目指していきたいと思います。
その為に必要な内部コミュニケーションの充実をさらに図り、各部署を結ぶパイプ役を担っていきます。

永年勤続表彰の様子

メッセージ

『家族会』『誕生日のお祝い』『永年勤続者の表彰』などを通して、社員同志が人とのつながりを大切にしつつ、働く意欲・やりがいを持てるように継続して取り組んでいきたいと思います。
内部コミュニケーションの充実は、外部コミュニケーションの充実につながりますので、ステークホルダーの皆様から安心と信頼を得られるように努力していきます。

総務部　金子主任

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（7）環境計量室の取組み
1）環境分析

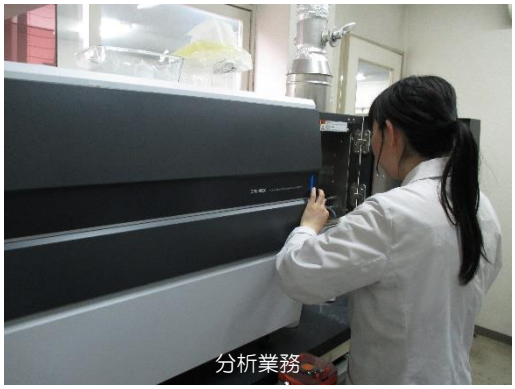
【取組み】
・本社屋周辺の土壌及び地下水が汚染されていないか、年3回（2月、6月、10月）観測井戸よりサンプリングし分析を行いました。
・本社屋合併浄化槽水質調査（毎月）と浄化槽機能定期検査（年1回）を実施しました。
・本社工場内の排水処理は自主基準を設け有害項目も含めて38項目を毎月水質調査を行いました。
・本社工場から最終処分場へ搬出される汚泥や燃え殻に環境を汚染する可能性がある有害物質がないか毎月分析を実施しました。
・太陽光発電を利用した省エネルギーで稼働可能な浄化槽システムの開発を行いました。
・分析技術向上為の内部精度管理と日本環境測定分析協会及び環境省主催の外部精度管理に参加しました。

観測井戸

【実績・評価】
・工場、本社屋共に有害物質の検出はありませんでした。
・新しく配属された社員の教育と内部、外部精度管理を通して社員全体のレベルアップを行いました。
・環境計量室内の薬品管理の為、劇毒物の在庫管理を毎月行いました。その他の薬品に関しても、年1回10月に在庫確認を行いました。

計量証明書

【今後】
・分析機器や分析方法についての講習会、内部、外部精度管理などに積極的に参加し、新しく配属された社員だけでなく、部署内全員の分析技術のレベルアップに取り組んでいきます。


分析業務

監視放流水、サンプリング

メッセージ

環境計量室では、本社工場に搬入される廃棄物の有害物質や危険物などの搬入前検査、本社の排水分析、倉橋工場で製造された肥料の品質管理分析を行っています。

内部、外部精度管理、分析の講習会などに参加することで、社員一人一人の技術力向上を目指しています。そうした取組みを行うことで、より安心かつ安全な品質管理を行っていきたいと思います。

環境計量室　古田

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

（8）エコアクション21事務局の取組み

1）環境コミュニケーションなど

【取組み】
・全社員参加の社員教育を4月に実施しました。

【実績・評価】
・49期は労働災害が本社工場・業務部合わせて5件発生したこともあり、全社員で消火器の点検と清掃・消火栓を使用しての消火訓練と、佐伯消防署の方に来社頂き、普通救命講習を開催しました。
　終了後のアンケートでは、「体験的な講習でコミュニケーションが図れた」「ＡＥＤの扱い方が周知できて良かった」などの意見が多くありました。

【今後】
・救命講習は3年に一度の頻度で定期的に実施していきます。そのほかでも、社員間のコミュニケーションが図られる体験型の全体教育を企画・実施していきます。

消火器点検の様子

普通救命講習の様子

2）環境力道場

【環境力道場とは？】
・環境力道場はその名の通り、環境力を身につけてることによりカンサイ独自のビジネス展開する考え方を、皆で道場のごとく意見をぶつけ合い双方の理解を深める社員研修です。
・49期（道場第3期生）からは、二ヶ月に１回、外部講師（認定ＮＰＯ法人環境文明21共同代表、加藤三郎先生、藤村コノ卫先生）を招いて実施しています。
・午前中は、地球温暖化問題から廃棄物処理業の現状と課題などを知識として学び、午後からは各部署間の問題を解決するために、問題を共有して解決策を討議し実行しています。
・また第3期生からは、『カンサイ版フィロソフィー』を発行するにあたって議論を行っています。

【今後】
・環境力道場で議論した事案を、経営者と再度協議を重ねて実行に移していきます。
・50期には、3期生の成果として『カンサイ版フィロソフィー』の発行を目指します。

各部署の発表の様子

カンサイ版『フィロソフィー』議論の様子

（8）エコアクション21事務局の取組み

3）情報公開

【取組み】
・情報公開のひとつとして、排出事業者の方はもとより、地域住民の方々に本社工場の施設見学を実施しました。

【実績・評価】
・2008年より地域住民の方々と広島市環境局の方に、本社工場を見学頂きまして意見交換をしました。
　アンケートの回答では、
「近況を理解できて非常に良かった。」
「バグフィルターの設置をしてもらいありがとうございます。」
「引き続き維持管理をお願いします。」
などのご意見を頂きました。

【今後】
・工場見学の実施やＨＰの充実を図ってステークホルダーの皆様に積極的に情報公開をしていきます。

地域住民の方々との意見交換の様子

本社工場見学の様子

4）資格取得

資格一覧

資　格　名	取得者数（48期）	取得者数（49期）	資　格　名	取得者数（48期）	取得者数（49期）
環境計量士	1	1	第二種酸素欠乏危険作業主任者	12	12
特別管理廃棄物処理業（処分過程）	1	1	アーク溶接	5	6
特別管理廃棄物処理業（収集運搬）	1	1	高所作業車	3	3
産業廃棄物処理業（処分過程）	1	1	特定化学物質等作業主任者	7	7
産業廃棄物処理業（収集運搬）	1	1	有機溶剤作業主任者	4	4
産業廃棄物焼却施設技術管理士	1	1	玉掛	6	6
産業廃棄物中間処理施設技術管理者	1	1	足場	3	3
作業環境測定士	1	1	車両系建設機械（整地等）	11	11
臭気判定士	1	1	小型移動式クレーン	6	6
2級土木施工管理技士	3	4	フォークリフト	8	8
計量証明事業主任計量者	1	1	高圧洗浄作業	3	3
一般毒物劇物取扱者	1	1	職長教育	3	3
危険物取扱者（乙種第4類）	2	2	下水道管路管理技士	1	1
危険物取扱者（丙種）	1	1	小型ボイラー取扱業務	1	1
第一種安全衛生管理者	1	2	廃棄物の焼却施設に関する業務	2	2
運行管理者	2	2	廃棄物焼却施設（ダイオキシン類）作業指揮者	2	2
安全運転管理者	2	2	第二種電気工事士	2	2

【取組み】
・必要資格のリストアップと資格取得者の計画取得

【実績・評価】
・2級土木施工管理技士と第一種安全衛生管理者を1名ずつ取得しましたが、計画取得までには至りませんでした。

【今後】
・業務上必要をようする資格取得を優先的に取得をしつつ、スキルアップ等の資格にもチャレンジしていきます。

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

1）環境測定の実施

場　　所	項目	単位	結果	規制値	測定日
本社工場（回転炉床式焼却炉）	ばいじん	g/㎥N	0.003	0.25	2015/10/6
本社工場（回転炉床式焼却炉）	塩化水素	mg/㎥	12	700	2015/10/6
本社工場（回転炉床式焼却炉）	硫黄酸化物	㎥/h	0.031	6.05	2015/10/6
本社工場（回転炉床式焼却炉）	窒素酸化物	ppm	100	-	2015/10/6
本社工場（回転炉床式焼却炉）	ダイオキシン	ng-TEQ/㎥	0.2	10	2015/10/6
本社工場（ロータリーキルン炉）	ばいじん	g/㎥N	0.04	0.25	2016/1/6
本社工場（ロータリーキルン炉）	塩化水素	mg/㎥	40	700	2016/1/6
本社工場（ロータリーキルン炉）	硫黄酸化物	㎥/h	0.21	5.3	2016/1/6
本社工場（ロータリーキルン炉）	窒素酸化物	ppm	130	-	2016/1/6
本社工場（ロータリーキルン炉）	ダイオキシン	ng-TEQ/㎥	0.00004	10	2016/1/6
本社工場（敷地境界）	騒音	dB	53(昼間)	55（昼間）	2016/3/22
本社工場（敷地境界）	振動	dB	30（昼間）	60（昼間）	2016/3/22
本社工場（敷地境界）	臭気	臭気指数	10未満	13	2016/3/22
本社工場（環境放流水）	BOD	mg/ℓ	2.2		2016/3/22
本社工場（環境放流水）	COD	mg/ℓ	4.4		2016/3/22
本社工場（環境放流水）	SS	mg/ℓ	1		2016/3/22

*窒素酸化物の規制値は施設が小規模なため規制はかかっておりません。
*環境放流水は、外部への放流をしていないため規制はかかっておりません。
（測定機関）
*本社工場（回転炉床式焼却炉）：㈱大和環境分析センター
*本社工場（ロータリーキルン炉）：㈱エヌ・イー サポート
*本社（環境放流水）：富士企業㈱

作業環境測定

測　定　場　所	管理区分
本社工場（回転炉床式焼却炉）	第1管理区分
本社工場（ロータリーキルン炉）	第1管理区分

（測定機関）
*MHIソリューションテクノロジーズ㈱

【取組み】
・本社工場では、ダイオキシン測定・排ガス測定など各環境測定を外部機関に依頼し実施をしました。

【実績と評価】
・49期も各測定外部機関に依頼しました。各測定結果も上記一覧表通り良い結果でした。

【今後】
・今後も各測定ともに外部機関に依頼し実施をしていきます。

メッセージ

49期の環境測定の結果は上記の通りです。
回転炉床式焼却炉・ロータリーキルン炉の排ガス測定（ばいじん・塩化水素・硫黄酸化物・ダイオキシン類）結果および敷地境界線における騒音・振動・悪臭測定の結果は、いずれも規制値以内で適正な管理が行われていると考えられます。
また、環境放流水につきましては外部への放流は行っていませんが、排水の規制値を下回っており問題ないと思われます。

環境計量士　道方室長

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

環境負荷の各部署全体像

本社工場

資　源

A重油（kℓ）	137
電力　（kWh）	495,117
軽油　（ℓ）	17,537

産業廃棄物（t）

汚泥	5,707
廃プラ	1,755
感染性	531
動植物性残渣	547
廃アルカリ	194
金属	88
有害汚泥	224
その他	1,095

化学物質

セメント　（t）	1,880
苛性ソーダ（ℓ）	7,829
PAC　（kℓ）	2

水投入量（m^3）

用水	20,438

CO_2排出量　783t-co_2

産業廃棄物排出量（t）

最終処分場

汚泥	4,241
燃え殻	446

再資源化

堆肥	297
金属屑	232
木くず	83
紙くず	44
廃プラ	50
汚泥	26
その他	86

排水

*全量再利用

業務部

資　源

軽油	93,415ℓ
ガソリン	4,753ℓ

CO_2排出量　256t-co_2

営業部

資　源

軽油	401ℓ
ガソリン	7,214ℓ

CO_2排出量　18t-co_2

6. 各部署49期の取組みと実績・評価

環境負荷の各部署全体像

資　源
電力　232,484kwh
軽油　33,867ℓ

廃棄物受入量
4,403t

倉橋工場

CO_2排出量
261t-co_2

肥料製造　759ｔ

資　源
電力(本社事務所)
63,946 kwh
電力(休憩所)
20,685kwh
水道水　1,158ℓ
LPG　699kg

本社事務所・休憩所

CO_2排出量
64t-co_2

廃棄物　973kg
*全量リサイクル

環境負荷のカンサイ全体像

CO_2排出量
1,382t-CO_2

7. 50期の環境活動計画

	目標	活動内容	実施時期	該当部門
1. 環境	（1）回転炉床・ロータリーキルンの重油使用量の削減	管理体制の強化、随時改善する プラント運転管理者の技術の向上	通年	本社工場
	（2）業務車両のガソリン・軽油使用量の削減	ドライブレコーダーの運用 および管理体制の強化	通年	業務部
	（3）営業車両のガソリン使用量の削減	エコ運転の教育・徹底	通年	営業部
	（4）重機の軽油使用量の削減	点検マニュアルの改善 および管理体制の強化	通年	倉橋工場
	（5）事務所電力使用量の削減	こまめな節電	通年	環境計量室
	（6）ムリ・ムダ・ムラの排除	仕事内容の精査と見直し	通年	全社員
	（7）場内全域の環境対策	廃棄物の受入れ設備・保管設備の改良	通年	本社工場
	（8）施設の改善	保管場所の整備・搬入ルートの改善	通年	本社工場 倉橋工場
	（9）在庫管理の強化	処理スケジュール作成による管理と実施	通年	本社工場 倉橋工場
	（10）緊急事態（自然災害）への対応	自然災害へのリスク調査（中期計画）	通年	本社工場 倉橋工場
	（11）各環境測定の実施	ダイオキシン測定ほか	通年	本社工場
	（12）燃え殻・汚泥・・肥料・排水維持管理	分析及び各部署への伝達	通年	環境計量室
	（13）環境活動レポートの作成	１１月初旬に50期版を発行	9～10月	ＥＡ21推進 メンバー
2. コミュニケーション	（1）ステークホルダーからの要望への対応	お客様の要望・意見・提案を回覧と共有	通年	全部署
	（2）情報の共有化	新システム導入によるスケジュール管理	通年	営業部
	（3）社員とのつながり	毎月誕生月の人をお祝する 永年勤続者の表彰	通年	総務部
	（4）家族とのつながり	社内報の内容を充実させる	年4回	営業部
		家族見学会の企画・実施	6月	総務部
	（5）ステークホルダーとのつながりの拡充	地域清掃活動への参加	通年	営業部
	（6）仕事の共有と効率化	経営企画会議の開催	年6回	各部門長
	（7）見学者の受け入れ拡充	部署間での事前協議	通年	営業部
	（8）積極的な情報公開	ホームページの充実	通年	総務部
3. 教育	（1）自社活動内容の理解度向上	年1回全体教育の実施	5月	EA21事務局
	（2）資格取得へのチャレンジ	リストアップと計画取得	通年	全部署
	（3）知識の向上	随時各講習会、講義の参加	通年	全部署
4. 安全衛生	（1）1年間無事故無災害	指差し確認の徹底と啓発	通年	本社工場 倉橋工場 業務部
	（2）交通事故の防止	事故事例の再検証	通年	業務部
	（3）飲酒運転禁止	アルコールチェッカーの運用 （基準値0mg）	通年	業務部
	（4）5S活動の推進 （整理・整頓・清掃・清潔・躾）	毎週金曜日の清掃活動	通年	全部署
	（5）安全衛生協議	月次報告会内にて設置	月/1回	EA21事務局

8. 第三者意見

これまで「温暖化」と言い慣わされてきた現象はむしろ「灼熱化」と言い換え、「気候変動」も「気候異変」と表した方が、実態に合うような時代になってきました。実際、日本はもとより世界中で、スーパー台風による洪水や豪雨、竜巻、高温などの異常気象が観測されています。

また、人間社会を見ても、貧困、格差、内乱、テロなど人々の暮らしの根底を揺るがす出来事が世界中で頻発しています。国内においても、今のところ内乱やテロこそないものの、不安定で未来に希望の持てない時代を迎えています。

そのような中でも、人が生きる限り、経済活動は絶えることなく続き、その結果としての廃棄物は不断に発生します。そして、それを安心・安全に適正に処理し、廃棄物に含まれる有用な成分を循環資源として取り出し再利用するという行為は、どのような時代においても大切な仕事であり、社会が必要とする仕事です。

そうした背景のもと、㈱カンサイは半世紀にわたり広島を中心に、廃棄物の処理と有効資源活用を業とし、近年は地球環境問題と有用資源の活用という時代の要請にもいち早く取組み、社会の期待に応じるべく努力してきた会社です。その努力の過程をこのレポートから読み取ることができます。

3年ほど前から内容の充実を図ってきましたが、今回は特に、これまでの実績と考察に加え、今期の取組みの様子と実績・評価がより詳細に記載されています。また目標が達成できなかった場合は原因をしっかり分析し、それに基づいて今後の対策が考えられており、ＰＤＣＡが日常業務の中で根付いてきていることが伺えます。さらに各担当者のメッセージには誠実さと仕事への熱意が感じられ、中小企業ならではの手作り感もあります。またパリ協定を受けてCO_2の大幅削減が求められることを踏まえ、その視点を中心にレポートが作られていることも評価できます。半面、対象範囲が狭まり全体のCO_2削減はできたものの各部署では増加している点は気になりますし、さらなる削減に向けて、省エネ機材の導入だけでなく、様々な創意工夫がこれまで以上に求められることも覚悟しなければなりません。「環境力道場」はじめ様々な研修や資格の取得などにより自らの能力を向上させるとともに、全体の連携を強化させ、環境創造総合企業の名にふさわしい企業に成長していってほしいと思っています。

2016年10月
NPO法人環境文明21共同代表
加藤三郎、藤村コノヱ

9. 環境関連法規・訴訟等の有無

（1）当社に適用となる主な環境関連法規制等

法律・条例等	主な内容
環境基本法	・事業活動に伴い生じる公害を防止する ・事業活動に係る製品が廃棄物となった場合の適正処理の措置 ・事業活動に係る製品が使用、廃棄されることによる環境負荷の低減と再生資源の利用 ・国または地方公共団体の環境保全に関する施策への協力
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・廃棄物の排出を抑制し、適正な分別、保管、収集、運搬、再生、処分等の処理を行う ・生活環境を清潔にすることにより、生活環境の保全及び公衆衛生の向上を図る ・マニフェストの交付、管理の遵守
水質汚濁防止法及び広島県公害防止条例	・工場及び事業場から排出される水の排出及び浸透を規制し、生活排水対策を実施する ・水質の汚濁の防止を図り、国民の健康を保護するとともに生活環境を保全する ・健康被害が生じた場合の責任を明確にし、被害者の保護を図る
騒音規制法	騒音についての必要な規制を行なうとともに、許容限度を定めることにより、生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する
振動規制法	振動について必要な規制を行うとともに、道路交通振動に係る要請の措置を定めること等により、生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する
悪臭防止法	悪臭について必要な規制を行い、その他悪臭防止対策を推進することにより、生活環境を保全し、国民の健康の保護に資する
大気汚染防止法	・ばい煙、揮発性有機化合物及び粉じんの排出等を規制し、有害大気汚染物質対策の実施を推進する ・自動車排出ガスに係る許容限度を定めること等により国民の健康を保護するとともに生活環境を保全する ・健康被害が生じた場合の損害賠償の責任について定めることにより、被害者の保護を図る
ダイオキシン類対策特別措置法	ダイオキシン類による環境の汚染防止及びその除去等をするため基準を定め、必要な規制、汚染土壌に係る措置等を定め、国民の健康の保護を図る
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律	事業者による化学物質の自主的な管理の改善を促進し、環境の保全上の支障を未然に防止する
消防法	国民の生命、身体及び財産を火災から保護するほか、災害等による傷病者の搬送を適切に行うことで秩序を保持し、社会公共の福祉の増進に資する
肥料取締法	肥料の品質を保全し、その公正な取引と安全な施用を確保するため、規格及び施用基準の公定、登録、検査等を行う。農業生産力の維持増進に寄与する
建設業法	建設業を営む者の資質の向上、建設工事の請負契約の適正化等を図ることによって、建設工事の適正な施工を確保し、発注者を保護するとともに、建設業の健全な発達を促進する
建設リサイクル法	・特定の建設資材について、その分別解体等及び再資源化等を促進する ・登録制度を実施し再生資源の十分な利用及び廃棄物の減量等を図る
道路運送車両法	所有権についての公証等を行い、並びに安全性の確保及び公害の防止その他の環境の保全並びに整備についての技術の向上を図る
毒物及び劇物取締法	毒物及び劇物について、保健衛生上の見地から必要な取締を行う
計量法	計量の基準を定め、適正な計量の実施を確保
高圧ガス保安法	高圧ガスの製造、貯蔵、販売、移動その他の取扱い及び消費並びに容器の製造及び取扱いを規制する
放射線障害防止法	放射性同位元素の使用、販売、賃貸、廃棄その他の取扱い、発生装置の使用及び放射性汚染物の廃棄その他の取扱いを規制し、これらによる放射線障害を防止する
労働安全衛生法	・労働災害の防止のための危害防止基準の確立 ・責任体制の明確化及び自主的活動の促進 ・職場における労働者の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成を促進する
古物営業法	盗品の売買の防止、速やかな発見等を図るため、必要な規制を行い、犯罪の防止を図り、その被害の迅速な回復をはかる
フロン排出抑制法	機器使用環境の維持保全、簡易点検

（2）違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反は過去三年間ありません。また、関係当局からの指摘は無く、訴訟もありませんでした。

10. 許認可情報等

産業廃棄物収集運搬業許可一覧			
許可行政	許可番号	許可期限年月日	優良認定
広島県	第03409004558号	平成33年09月01日	㊇
岡山県	第03307004558号	平成35年06月18日	㊇
島根県	第3200004558号	平成30年11月07日	
山口県	第03500004558号	平成30年11月24日	
鳥取県	第03104004558号	平成33年07月05日	㊇
愛媛県	第3805004558号	平成30年08月28日	
高知県	第03900004558号	平成34年09月04日	㊇
徳島県	第3600004558号	平成28年10月23日	
香川県	第03709004558号	平成30年05月26日	
兵庫県	第02803004558号	平成34年08月30日	㊇
特別管理産業廃棄物収集運搬業許可一覧			
許可行政	許可番号	許可期限年月日	優良認定
広島県	第03459004558号	平成28年11月28日	㊇
岡山県	第03357004558号	平成35年06月18日	㊇
島根県	第3250004558号	平成35年09月02日	㊇
山口県	第03550004558号	平成30年11月24日	
鳥取県	第03154004558号	平成31年02月01日	
愛媛県	第3855004558号	平成30年08月28日	
高知県	第03950004558号	平成34年09月04日	㊇
徳島県	第3650004558号	平成28年10月23日	
香川県	第03759004558号	平成30年05月26日	
兵庫県	第02853004558号	平成34年08月30日	㊇

産業廃棄物処分業許可一覧			
許可行政	許可番号	許可期限年月日	優良認定
広島市	第0720004558号	平成34年03月21日	㊇
呉市	第07422004558号	平成34年09月27日	
特別管理産業廃棄物処分業許可一覧			
許可行政	許可番号	許可期限年月日	優良認定
広島市	第07370004558号	平成30年07月28日	㊇

施設	処理方法	処理能力
回転炉床式焼却炉	焼却	6.6t/日
ロータリーキルン焼却炉	焼却	4.8t/日
二軸剪断式破砕施設	破砕	木くず6.0t/日・・他
縦型圧縮梱包器	圧縮	繊維くず4.49t/日・・他
電気ヒーター熱分解方式	溶融	50㎥/時
移動式脱水車	移動脱水	50㎥/日
固化施設	固化	50㎥/日
天日乾燥施設	天日乾燥	50㎥/日
連続中和装置	中和	48㎥/日
安定化処理施設	安定化	4t/日
発酵施設	発酵	70t/日

区分	産業廃棄物収集運搬	産業廃棄物処分業
燃え殻	○	
汚泥	○	○
廃油	○	○
廃酸	○	○
廃アルカリ	○	○
廃プラスチック類	○	○
紙くず	○	○
木くず	○	○
繊維くず	○	○
動植物性残渣	○	○
動物系固形不要物	○	○
ゴムくず	○	○
金属くず	○	○
ガラス・陶磁器くず	○	○
鉱さい	○	
がれき類	○	
動物のふん尿	○	
動物の死体	○	
ばいじん	○	
産廃処理物	○	
石綿含有産廃を含む	○	

区分	特別管理産業廃棄物収集運搬業	特別管理産業廃棄物処分業
廃油	○	○
廃酸	○	○
廃アルカリ	○	○
感染性産業廃棄物	○	○
特定有害産業廃棄物		
燃え殻	○	○
汚泥	○	○
廃油	○	○
廃酸	○	○
廃アルカリ	○	○
鉱さい	○	○
ばいじん	○	○

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

全体の評価

　環境報告書も速やかに作成し、内容もステークホルダーの皆さまから本当にわかりやすく充実していると話されることが多くなりました。また本社・本社工場・倉橋工場・環境計量室を見学頂いたお客様、行政機関の方々に「環境整備が行き届いていますね。安心して廃棄物処理の委託が出来ます」と声をかけて頂いております。
　これからも従業員が成長し、従業員の自信につながるような設備投資、そういった機会を積極的に創造し、推進していきたいと考えております。良き考え方や良き人材を礎にしつつ、継続して人間教育・環境教育を行い、地域社会やお客様へ価値を創造し、共有できる会社にしていきたいと思います。

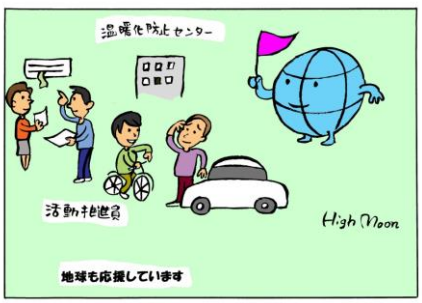
環境管理責任者
川本　義二

12. 編集後記

　昨年に続き、49期環境活動レポートを編集をさせて頂きました。今年も正直なレポートづくりを心掛けました。年々活動内容も充実していきレポートも分かりやすくなってきたと思いますし、手作りならではの温かみは、他社にはない特徴ですので、楽しく読んでもらえると思います。

　昨年は、環境省主催の第19回環境コミュニケーション大賞に応募しましたが、残念ながら落選となりました。そこで今年は、フィードバックコメントでご指摘のありました、グリーン購入、処理業の有効期限を追記しました。さらに、本社工場で実施した各環境測定結果を情報公開することで、ステークホルダーの方々に、よりご理解して頂ける内容になっていると思います。

　49期環境活動レポートを通して、環境への取組み、地域貢献を継続していき、多くの方々に、㈱カンサイを知ってもらうツールのひとつにしていきたいと思います。



※なお、随所にハイムーン氏のイラストを使用させて頂きました。

エコアクション21推進責任者
北川　貴伸

株式会社カンサイは、環境創造総合企業を目指しています

KANSAI

株式会社　カンサイ
住　所　〒731-5102
広島県広島市佐伯区五日市町大字石内460番地
連絡先　ＴＥＬ：（082）941-1641
ＦＡＸ：（082）941-1715
E-mail：　kansai@ekansai.co.jp
発行責任者　エコアクション21推進委員
（担当）北川・舛本